

## 日系食品企業の海外進出とその国内外への波及効果

コーディネータ： 加賀爪優（京都大学）

座長： 加賀爪優（京都大学）

報告者と報告テーマ：

- 1) 加賀爪優（京都大学）「日系食品企業の海外直接投資と産業内貿易の展望」
- 2) 櫻井武司（一橋大学）「アセアン諸国における日系企業の進出と規定要因」
- 3) 鈴木宣弘（東京大学）「地域貿易協定および自給率への波及効果」
- 4) 沈 金虎（京都大学）「中国における日系食品企業の動向」
- 5) 高木知英美（台湾中興大学）「台湾における日系食品企業の動向」
- 6) 樋口倫生（農林水産政策研究所）「韓国における日系食品企業の動向」

セッションの趣旨：

昨今の厳しい自由化圧力と人口減少による市場の停滞の下で、食料農業部門は激しい競争にさらされ、縮小を余儀なくされている。こうした中で、多くの日系食品農業企業が、安価な原材料と労働・資源および新たな市場を求めて海外事業展開を活発化させている。当初の進出目的は前者が主流であったが、近年では次第に後者にシフトしつつあり、進出先のみならず第三国市場への販売をも視野に入れて展開されている。他方、消極的な輸入保護だけではなく、積極的に輸出攻勢にチャレンジする農村地域をも出てきている。これは、FTA や EPA、さらには TPP の議論の中で、昨今の貿易形態が、伝統的な産業間貿易から、産業内貿易、さらには工程間分業へと変質しつつある中での対応でもある。本セッションはこうした状況が、現地でどのような問題に直面しているのか、また、第三国市場や国際食料農産物市場への影響はどの程度か、さらには、我が国の食料農業部門への波及効果は今後どのように展開して行くのかについて検討する。